

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0190501874		
法人名	㈱リビングプラットフォーム		
事業所名	ライブラリ中の島		
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目3-15 ル・パルク中の島2階		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果市町村受理日	平成31年1月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成30年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GH中の島は静かな住宅街にあります。周りは公園があり、四季折々の季節を感じることができます。公園は春から秋にかけて散歩によく行く場所で、季節の花や景色を見て入居者様は喜ばれています。ホームの買い物等は入居者様と職員と行くこともあり、おやつなど入居者様に選んで頂くこともあり、家庭的な雰囲気大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、豊平区中の島の市街地に位置し、閑静な住宅街にある5階建てビルの2階にある1ユニットのグループホームである。建物の造りは鉄筋5階立てのビルの2階の学生会館を改装したもので、色々な制約もありますが工夫して利用者の馴染みの住まいとなっている。法人は札幌を中心に関東地区や東北地区に認知症高齢者グループホーム、有料老人ホーム、居宅介護支援事業所などの介護事業、障がい者相談支援や就労支援B型事業所などの障がい者サービス事業、保育事業など幅広く事業展開しているグループ会社で、培った経験を運営に活かしている。ホーム内は、車椅子利用でもゆったりとするスペースが確保されている。献立や食材の調達は法人が手配するので、利用者に関わる時間が多く持てる。周囲は自然環境に恵まれて四季折々の楽しみを体験できる。介護度の重い利用者にはシャワーいすを準備して、入浴を楽しんでいる。認知症高齢者の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念・ホーム理念は居間に掲げているので毎日の朝礼で職員が唱和を行って、共通意識持つようにしています。	「住み慣れた環境のなかで和やかに楽しく暮らす」を理念に掲げ、利用者・職員一つになって普通の生活を継続し、地域とかかわりつつ理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	事業所として町内会に加入し、行事など参加しています。運動会や夏祭り等	町内会の一人として行事に職員と利用者が参加したり、ホームの夏祭りのイベントなどに地域の協力を頂いている。日頃から良好な関係作りをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議に参加していただき、入居者様の暮らしぶりを見ていただき、認知症の理解につなげている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には入居者様・地域住民・民生委員・地域包括支援センターの参加を受け、身体拘束廃止や虐待等お取り組みについて報告話し合いを行ってサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、報告のみならず質疑応答で内容を深めている。記録は整備され家族に知らせている。	運営推進会議は定期的開催し、運営状況の報告や意見交換など行っているが、家族の参加が不足のようで、促しと工夫が求められる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターや運営推進会議を通し協力できる関係を築きいています。子供110番の家の登録を行っています。	利用者の中には生活保護受給者もあり、区役所のケースワーカーや地域包括支援センターとは連携を密にしている。子供110番も掲示している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として身体拘束委員会があり、委員会を中心として、外部の研修を受けたり、内部研修を行い会議の中で話し合いを行う。夜間帯以外の施錠は行っていません。	職員で身体拘束委員会があり、外部研修の参加、更に内部研修の充実など利用者がのびのびと暮らすように拘束の無いケアに当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自分たちのかかわりが虐待に当たるか、暴力になっていないかを注意を払いサービス提供のあり方を考え会議などで話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は利用した方はいませんが成年後見制度を利用した方ができたときは研修等行い理解に努めました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面を見ながらご家族様・ご本人様に口頭で説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出入口に面会票をおき、意見箱を設置。運営推進会議でも意見を出せるような環境を作っています。	玄関に意見箱を設置しているが利用はないので、面会時に出来るだけ会話を多くして家族の思いを伺っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や朝礼で意見や提案を聞き、その意見等管理者会議で報告を行っています。	日頃から職員間の連携を良好にし、気づきの確認や情報の共有化に努力している。法人内の管理者会議で話し合うこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価・4回の面談を行い資格習得の補助金の支給・誕生日プレゼントを渡しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に2回ほど会社で行う研修を受講。研修を受けた職員は職員会議の中で報告を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は管理者連絡会議を通し、他事業所と連携に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様の不安を取り除くよう連絡を取りやすい関係性を作るようにしています。入院されたときや、通院等職員・看護師がお見舞いに行き、不安がないように関係を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居判定や見学の際にご家族さまが安心できるように努めている。お話を傾聴し、寄りそうようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状況を把握し、適切なサービスの提案等行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム理念のもと職員と入居者様が家事や買い物会話できる状況を作っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム通信や運営推進会議で行事の参加を促す。電話等でも常に連絡を取り報告しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の選択やなじみの方との面会等行っています。	利用に至る前の関係が途切れないようにかかりつけ医師や親族との関係など支援し、利用者本位に配慮している。家族の協力を頂いて馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・レク・散歩や買い物等入居者様同士が関われる時間を持っています。入居者様同士で居室でお話することもあります。		
22		○サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先等への情報提供・退居したご家族様へ連絡をし、生活状況など聞くこともしています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用づくり、者様と関わる時間を設け、寄りそえる環境を作っています。	会話が可能な利用者とは寄り添って思いを伺い、状況によっては行動や仕草から利用者の望む暮らしを模索して支援している。家族からの聞き取りも大切にする。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様やご本人様とお会いし情報を集める。生活歴等も聞かせて頂きご本人様が生活しやすいように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議・申し送りで見極め、都度、援助を検討しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を作り、担当職員を中心として計画を立てています。医師や看護師からの意見も取り入れご本人様やご家族様の意見を優先し作成。	居室担当者が基本的な介護計画の案づくり、職員全員でモニタリングをし、無理のない計画作成に努めている。家族の意見も伺っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の様子を職員同士で共有を行う。チェック表などを利用しケアプランはすぐに確認できる用意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や鍼灸往診外出な祖、ニーズに合わせています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への行事の参加・檜尾の外出や食事を食べに行ったりしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への継続など希望をそのまま継続。往診時紹介状をもらい受診できる環境を作っています。	ホームへ往診する医師を確保し、看護師を配置して適切な医療が受けられるように利用者の健康管理に注意している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師が勤務。入居者様の健康管理医療機関との連携を行う。24時間オンコール体制で対応してくださっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師からの看護添書等情報提供を行っています。入院中は管理者・看護師が面会に行き、電話などでも状況を聞き把握をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における方針を説明しています。リビングウイル等を使い看取りについてもお話させて頂いています。	入居時に重度化した場合のホームとしての対応の指針を説明し、文書で確認している。看取りについても実際に実施した体験を活かし、家族の了解を得ながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し会議で説明。研修等も行っていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回から4回の避難訓練・夜間想定や日中常の想定その他・水害訓練を行っています。	災害訓練については充分念を入れて実施し、日中、夜間のみならず、広い範囲の水害訓練も実施している。同じビルと共同の訓練もある。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や朝礼・会議等で職員に落とし、注意しています。	職員研修でも話題にし、利用者個別に人格を尊重し、個性を認めつつケアに当たっている。写真の掲載など事前に了解を頂いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が話しやすいように傾聴をしています。表情や話し方・しぐさも注意し寄り添うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1日の流れを押し付けるのではなく、ご本人様のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洋服などご自身で選べるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作ってくださったり、希望のメニュー変更等している。片付けもしてくださっています。	利用者の中には台所での協力者もいる。決められた献立だが、状況によって変更も可能で職員と一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事摂取量がすぐわかるようにチェック表を作り目に見えるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの促し、介助を行い、衛生士さんにも来ていただき口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間で排泄誘導・声掛け・パット交換等行っています。チェック表を作りいつ行ったか分かるようにしています。	個別に排泄パターンを把握し、できる限りトイレ介助で誘導などを支援している。やむ得ずオムツを使用する場合は不快な状況にならないようにこまめに支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時にヨーグルトを提供。水分も多めにとって頂ける環境を作っています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	週に2回は入浴を行っています。ご本人様の希望があれば都度入浴。入浴できない場合は振替を行っています。	制約のある浴室ですが、安心して入浴できるように工夫して支援している。シャワーいすを用意し週2回を目途に実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の状況に応じて無理強いせず、個室で過ごされたいときはゆっくりとして頂く。居間に来られたときは職員や他入居者様と談話等しています。就寝時は照明を落とし、ゆっくりできる環境を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルしすぐに確認できるようにしています。薬の変更時は申し送り等で伝え、受診往診記録などにも記し、職員が共有できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせたプランを立て役割を持っていただけのようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出は天気が良い日に行っています。外出レクリエーションや外食等出かけられる環境を作っています。	利用者の希望に充分対応できないときもありますが、戸外の散歩など天候に合わせて柔軟に支援している。ホームの屋外行事も実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理されている方は買い物等ご自身でお金を払い買い物される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望により電話をかけたり行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は狭くて使いづらいですが、心地よく過ごして頂けるように作品等飾ったり、ポスター作り等して飾っています。	建物の制約は致し方なく、不自由な点もありますが工夫して利用者の馴染みの場所になっている。壁面を利用して作品などが掲示されている。居室に閉じこもらないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭さがある為、一人にはなれませんが入居者様が談笑したりできるような環境を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様のなじみの家具等を使用させていただく。ご家族様・ご本人様の意向を大切にしています。	居室に洗面台があり、手洗いなど自由に来れるようになっている。居室の入り口には利用者の名前がわかるように掲示されている。本人の馴染みのものを配置し落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札を張ったり、トイレ・お風呂等わかりやすく表示している。		